第4回　THE シガパークビジョン検討委員会　議事概要

１．開催日時：令和８年７月１５日（水）　９：３０～１１：４０

２．開催場所：滋賀県危機管理センター1 階災害対策室１（Web 併用）

３．出 席 者：上田　洋平（滋賀県立大学地域共生センター）委員
福井　亘（京都府立大学　生命環境科学研究科）委員
髙木　浩文（公益財団法人　淡海環境保全財団）委員
辻　祥子（滋賀県シェアリングネイチャー協会）委員
岩嵜　博論（武蔵野美術大学　造形構想学部）委員（Web）
廣瀬　香織（一般社団法人ママパスポートコミュニティ）委員
※欠席　宮本　麻里（合同会社 LOCO）委員

（敬称略）

４．議事　(1) 開　会
(2) 報告事項
THE シガパークビジョン検討委員会設置要綱の改正について　資料-1
第３回 THE シガパークビジョン検討委員会議事概要について　資料-2
湖岸公園全体計画の検討について　資料-3
今年度のスケジュールについて　資料-4
(3) 審議事項
THE シガパークビジョン（たたき台）について　資料-5
THE シガパークビジョンイメージ図作成方針について　資料-6
(4) 閉　会

５．議事内容

(1) THE シガパークビジョン検討委員会設置要綱の改正について

事務局より、THE シガパークビジョン検討委員会設置要綱の改正について説明(資料-1)。

＜主な意見＞

（委　　員）所管が一元化されることは事務の効率化や方向性が統一されるので良い。しかし各公園はそれぞれ旧所管の施策と結びついているため、庁内の連絡調整会議等の体制は存続しているのか。

（事 務 局）旧所属課と密接に連携しながら公園管理にあたっていく予定である。

(2) 第３回 THE シガパークビジョン検討委員会議事概要について

事務局より、第３回 THE シガパークビジョン検討委員会議事概要について説明（資料-2)。

(3) 湖岸公園全体計画の検討について

事務局より、湖岸公園全体計画の検討について説明（資料-3)。

(4) 今年度のスケジュールについて

事務局より、今年度のスケジュールについて説明（資料-4)。

(5) THE シガパークビジョン（たたき台）について

事務局より、THE シガパークビジョン（たたき台）について説明（資料-5)。

＜主な意見＞

（委　　員） p10 の 6 行目「共助」は、一般的に災害や安全安心のまちづくりに使われる文言だと思う。また、「共創」は、県では健康医療福祉部が用いている言葉。環境保全活動では、住民自らが取り組む「住民自治」の力という文言を使っていた思うので確認してほしい。

次に p11 に注釈を設け、公園の種別ごとの違いを入れてほしい。都市公園等は営造物公園、自然公園は土地の権原が県以外の民間も含めて区域を指定する地域制公園であり、その違いによって、整備の財源や運営方法、規制が異なるため。

また、p15 の 13 行目に障がい者の文言を追加してほしい。

（事 務 局）指摘を踏まえてビジョンに盛り込んでいきたい。

（委　　員）ビジョンはボリュームがあるため、次回からは委員会前に印刷物を確認したい。

（事 務 局）承知した。

（委　　員）p19 の挿絵について、高齢者が悩んでいるように見えてイメージが悪いため差し替えた方がいい。また、p15 の 20 行目、県の財政的制約を踏まえた施設の老朽化について、財政が厳しいことは承知の上だが、どんどん予算が削減されて最低レベルの施設更新になる可能性が非常に高い。そうなると負のスパイラルで公園を使わなくていいのでは、となる可能性が大変高いと感じる。このため最低限の施設更新とならないよう、どのくらいのレベルを想定するのかをしっかり書くべき。また、国も街路樹や公園樹の倒木に対して動くなど、ビジョン以前の問題だが、公園樹木の管理は喫緊で行うべきであるが、予算もかかる。伐採すればよいわけではなく、どのように管理するかだが、27 行目の記載は 3 行では足りない。ビジョンとして未来志向的にこうすべきだというようなことを書いてほしい。滋賀の公園のレベルが高いことを全国に示すくらいで書いてほしい。

（委　　員）THE シガパークという言葉は浸透してきているが、それが一体何なのかまでは伝わっていない。「美」「優」「楽」という 3 つの視点で、こうしますということを明確に打ち出していけば、県民にもわかりやすく伝わるのでは。

（委　　員）ビジョンを誰に知ってほしいのか。維持管理に重きが置かれていると感じられ、利用者目線が少ないと思う。p21 の利用者等の公園に対する期待についても県内外で真逆のものを求めており、シガパークはどっちを目指すのか。ビジョンとして県の方向性を決めた方がいい。また、p15 の課題として、最

近は気温上昇で遊具が熱くて使えないなど、公園に危険な場所のイメージもある。今後の気温上昇の課題も見据えた、公園の在り方が書かれていたらよいと思う。

（委　　員）言葉遣いや行間に管理者目線が無意識に出てしまうため、県民や公園利用者一人ひとりに「これは私に向けたビジョンだ」と思ってもらえるような表現にする必要がある。

（委　　員）複数の公園がそれぞれつながり、THE シガパークという一つの公園像みたいなものができているという構造が、イメージ図も含めてうまく伝わると良い。

P.28 の公園で三方を健やかにという図があるが、非常に重要と思っている。自然と人がどのような関わりを持つかというところが、ビジョンを通じて伝わればよいと思う。

また、行動計画の重点事業が重要である。P-PFI などは経済合理性により成立しやすいところに偏ってしまう可能性がある。どの公園にも満遍なく展開できるような仕組みづくりも含めた議論があるといいと思う。また、p34 の目標について、最終のゴールをどこにするのか。認知度の計測の複雑さを念頭に置いて目標を設定することが必要である。

（事 務 局）指摘を受け止め、素案に記載していきたい。第 2 編の行動計画では、ベース事業としてトイレ、駐車場、看板の整備がまず必要と事務局として考えているが、暑熱対策など様々な事業が考えられる。どのようにしぼりこんでいくべきかアドバイスをいただきたい。

（委　　員）マズローの「欲求 5 段階」というものがあるが、公園に期待されることや公園が果たす機能を生理的欲求の実現から自己実現欲求の実現までといった形で整理して表現いくようなやり方もあるのではないか。

（委　　員）ソフト投資も非常に重要。ブランディングや認知の話でもあるが、ウェブサイトに一元的に情報を整理するとか、マルシェなど、より多くの県民の関わりしろが生まれる仕組みがあるといい。公民館的な機能が公園にあるとか、野外イベントなど県民の発案で行えるとか、ハードとソフトをつなぐような関わりしろが生まれる取組も必要となってくると思う。

（委　　員）阪神・淡路大震災の際、公園に避難したり公園で生活したりした人もいた。備えることは大事であり、防災の観点はマストでやっていただきたい。定期的な管理に予算も必要だが、公園には県民の生命を維持するうえで大きな役割があるので、その対策はしてほしい。また、文化をつなぐようなものにしてほしい。公園があることで、歴史・自然・運動・精神的なもの・生き物に対しても対応できるような施設を考えたいと思っている。例えばアメリカでは街路樹を 1 本植えると医療費がどれだけ下がるという研究結果があるように、公園があることでかなりの効果があると思う。県民の健やかな健康を守っていけるような公園づくりを考えていけばよいと思う。

（委　　員）ハード整備と併せてソフト事業の展開が、県民と公園との関わりという面で大事。ソフト事業は全て行政や公園管理者が担うのではなく、地域コミュニティや様々な市民活動団体と連携して行うことで、県民にとっても愛着が

湧き、自ら美化に努めようと思うのではないか。それぞれの公園の設置目的にかかる施策や事業の所管課とともに展開を考えてほしい。

（委　　員）各公園に、レンタルスペースのような活用のイメージを想定した設備があると良い。また、電源やライトの設備があれば、イベント時もキッチンカーやマルシェなどが使いやすいのに加えて災害時も利用できるのでは。

（委　　員）「公園」×（かける）「〇〇」のように公園独自の特性を持たせて展開されるといい。自然観察会を開催しても、暑くて人が集まらないことや、園芸種が多く説明に苦慮することがあった。滋賀のもともとの自然を観察できるような全天候型の植物園が整備されると自然観察会もやりやすい。

（委　　員）健康、身の安全という点から考えると気候変動に伴って人々の行動時間が変わり、公園の利用時間も変わっていくことも考えらえる。設備をシェアし、場をシェアし、時間をシェアする。蓄える、備える、など公園における行為をベースに方針を提示するのもひとつである。また、p19 のイラストは、単なるイラストではなく、利用者のペルソナを踏まえたエピソードを描いた漫画のようなものになっていればより伝わりやすい。コラムとして、物語風に書くような工夫があっても面白い。

自由な個人が公園という場やそこにある設備を共有しながら、新たなコミュニティが公園を利用することを通じて、公園を介して作られていく側面についての記述がもう少しあってもよい。

事務局より、「個別の公園」と「公園で活動する人、今後連携していきたい市町の公園・地域団体・企業等」に対する呼び名について説明（参考資料-1)。

＜主な意見＞

（委　　員）行政や関わる人の使いやすさが大事であり、一般的な用語の方がいいのではないか。

（委　　員）THE シガパークという言葉が特徴的であるため、一般的に流通している言葉で公園ネットワークか、パークネットワークという言葉がわかりやすくていいと思う。

（委　　員）各公園には固有名詞があるので、この従来の名称と、パークネットワークと、THE シガパークの 3 段階でいいと思う。

（委　　員）公園ネットワークかパークネットワークだったらパークネットワークがいいと思う。

（委　　員）公園、公園と続くより、カタカナが柔らかく感じることもあるので、「パークネットワーク〇〇公園」とした方が良いかもしれない。

（委　　員）「～公園」、という名称でない公園もあるので、パークにした方がいいのかもしれない。ここではこうしておきましょう。

(6) THE シガパークビジョンイメージ図作成方針について

事務局より、THE シガパークビジョンイメージ図作成方針について説明（資料-6)。

＜主な意見＞

（委　　員）県民からするとビジュアル資料は非常に分かりやすいので重要である。パー

スだと手前と奥で大きさに差がついてしまうため、正対で見る図が良いと思う。琵琶湖を囲む公園がネットワークになっていることが伝わる。また、琵琶湖の周辺も公園であることが分かるような絵を描かれるとよい。描くものの優先順位をつける必要がある。歴史的建物や交通網などの順位は下げ、自然環境やアクティビティを中心にした絵にするとよい。

（委　　員）このイメージ図は滋賀県でできる観光などを含む地図になるのか。。

（事 務 局）琵琶湖を中心に、滋賀県全体が水と緑、人々の活動でつながった大きな公園となった姿をイメージした図にしたいという思いである。

（委　　員）それであれば、琵琶湖を縦長に表示する形で、公園を焦点にあてたイラスト展開で、公園と琵琶湖をつなぐ形で何かできることを挙げる方がイメージしやすいのではないか。

（委　　員）炭酸デザイン室がデザインした近江のお茶のパッケージイラストのようなものをイメージしていた。抽象的で、おしゃれで可愛くていいなという絵の方が「滋賀県はでっかい公園だ」のイメージだと思う。

（委　　員）THE シガパークの定義に戻ると、滋賀県全体が一つの大きな公園となった姿を書けばよいと思う。ビジョンの対象の個々の公園をクローズアップするのか、県全体の姿を大きく抽象的に描くのかどちらかだと思うが、私は後者が良いと思う。

（委　　員）京都市の緑の基本計画が Web で公開されているので見ていただきたい。京都市が求めたい将来の緑はどういう緑かというのを描いた絵があるのだが、想像してくださいみたいな感じの絵であり斬新な取組と思った。今回はちゃんとわかるようなイラストにした方がいいと思う。

活動アクティビティについて、青年期・高齢期という分類はしない方がいい。

（委　　員）ビジョンのイメージなので、細かく具体的でなく、抽象化されたものがいいだろうと思う。

（委　　員）いろんなものがネットワーク化されて一つの名称になったり、取組になったり、コミュニケーションになったりする事例はあまりないため、非常に先進的な取組になっていくと思う。

（委　　員）パートナーの呼び名をどうするかについて、委員の皆さんに考えておいてもらいたい。次回以降に議論したい。

以上